

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

演目選択理由

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんせんだいふいるはもにーかんげんがくだん 公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL https://www.sendaiphil.jp
代表者職・氏名	理事長 高橋 宏明	
制作団体所在地	〒 980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町1丁目3-9	最寄り駅(バス停) 地下鉄南北線「勾当台公園」
電話番号	022-225-3934	
ふりがな 公演団体名	せんだいふいるはもにーかんげんがくだん 仙台フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL https://www.sendaiphil.jp
代表者職・氏名	理事長 高橋 宏明	
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停) 制作団体に同じ
制作団体 設立年月	平成22年9月	
制作団体組織	役職員 [理事]19名 [評議員]17名 [監事]2名 [事務局職員]21名	団体構成員及び加入条件等 [団体構成員]62名 [加入条件]採用オーディションによる
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名 事業部 演奏事業グループ 千葉 和帆
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名 総務部 次長 曳地 淳
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info_sc@sendaiphil.jp	

公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団

制作団体沿革

仙台フィルは、1973年に市民オーケストラ「宮城フィルハーモニー管弦楽団」として誕生。翌年に初の定期演奏会を開催して本格的に活動を開始した。1983年4月から89年1月に芥川也寸志が音楽総監督として現在の礎を築き、1989年度から2005年度に外山雄三が音楽監督、2006年度から2017年度にパスカル・ヴェロが常任指揮者として、また2018年度から2022年度に飯守泰次郎が常任指揮者としてアンサンブルに磨きをかけてきた。2023年度に高関健が常任指揮者に、太田弦が指揮者に就任。新たなレパートリーによりさらに音楽的深化を推し進めている。

2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災による影響で、仙台フィルは数ヶ月にわたり演奏活動を中止せざるを得ない状況となったが、「音楽の力による復興センター・東北」と協力し音楽を被災者のもとに届けながら絆をつなぐ活動を行い、2011年度エクソンモービル音楽賞洋楽部門本賞、渡邊暁雄音楽基金特別支援を受賞した。震災から2年を経た2013年には独立行政法人国際交流基金主催によるロシア公演で被災地を代表して演奏し、震災後に世界から寄せられた支援への感謝の気持ちと、被災地で音楽を奏でる楽団の姿が広く全世界に紹介された。

本拠地、日立システムズホール仙台・コンサートホールでの定期演奏会は2016年に300回を数え意欲的な取り組みが高く評価されているほか、0歳からの演奏会「オーケストラと遊んじゃおう!」、宮城、福島など東北広域で開催される「名曲コレクション」、日本人作曲家の名作を紹介する「『日本のオーケストラ音楽』展」など多彩な活動を繰り広げている。

2001年から開催されている仙台国際音楽コンクールでホストオーケストラとして出演しているほか、2006年秋からは、毎年「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも広く市民に親しまれ、「杜の都」の音楽文化における中心的役割を担っている。その他、県内外での各種コンサートへの出演や文化庁による全国の小中学校訪問なども含め、年間100回を超える活動を展開している。2023年に創立50周年を迎えた。

学校等における公演実績

- ・令和元年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全13公演
- ・令和2年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全11公演
- ・令和3年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全10校
- ・令和3年度〈子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業〉全11校
- ・令和4年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉全6校
- ・令和4年度〈文化芸術による子供育成総合事業—文化施設等活用事業〉全2公演(8校同時開催)
- ・令和5年度〈舞台芸術等総合支援事業—学校巡回公演〉全7校
- ・令和5年度〈文化芸術による子供育成総合事業—文化施設等活用事業〉全3公演(29校同時開催)

特別支援学校等における公演実績

- ▼平成28年度〈文化芸術による子供の育成事業—巡回公演事業〉
福井県・南越特別支援学校
- ▼令和元年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉
宮城県・仙台市鶴谷特別支援学校
- ▼令和2年度〈子供のための文化芸術体験機会の創出事業〉
宮城県・宮城教育大学特別支援学校
- ▼令和2年度〈文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業〉
茨城県・茨城県立結城特別支援学校

参考資料の有無

申請する演目のWEB公開資料

有

※公開資料有の場合URL

<https://youtu.be/vR6PYKnEGBY>

※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード

ID:

PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】

演目選択理由	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	音楽と物語、新たな出会いを感じて ～仙台フィルハーモニー管弦楽団・オーケストラコンサート～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>コンサートのはじめを飾る曲は、華やかなトランペットのファンファーレから！</p> <p>① ロッシーニ: 歌劇「ウィリアム・テル」序曲 より “スイス軍の行進”</p> <p>ワークショップでは見られなかった楽器たちとご対面！</p> <p>② 楽器紹介コーナー 「オーケストラの仲間たち」</p> <p>オーケストラとコラボレーション！</p> <p>③ ドラムマーチ(手拍子参加型) ～ スーザ: 行進曲「星条旗よ永遠なれ」</p> <p>「^{コンチェルト}Concerto(協奏曲)」って、何だろう？</p> <p>④ 楽団員による「^{コンチェルト}Concerto(協奏曲)」を聴こう ※学校ごとにソリスト・曲目を変更します</p> <p>オーケストラの要、「指揮者」について知ろう！</p> <p>⑤ 指揮者体験コーナー 「君は今日からマエストロ！」</p> <p>～休憩 (15分)～</p> <p>知る！見る！聴く！物語を通じて音楽を楽しもう！</p> <p>⑥ チャイコフスキー: バレエ「くるみ割り人形」より (語り付き) 語り: 竹平晃子 (語り台本: 新井 鷗子)</p> <p>世界でたったひとつ。この瞬間、あなたに贈る思い出を。</p> <p>⑦ 【アンコール】 開催校校歌(合唱共演)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名 日本音楽著作権協会	許諾確認状況 採択後手続き予定
演目概要	別紙(演目概要)ご参照ください。		
演目選択理由	別紙(演目選択理由)ご参照ください。		

<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>オーケストラを鑑賞するだけでなく、体験的な活動を通じて音楽に触れていただきます。今回は児童・生徒の皆さんと3つの共演を行います。</p> <p>③ドラムマーチ ～ スーザ:行進曲「星条旗よ永遠なれ」 自分の身体に楽器が備わっていることを児童・生徒に発見していただきます。このコーナーでは音楽の要であるテンポを、スネアドラムのリズムに合わせて手拍子で参加していただきます。速いテンポや遅いテンポで手拍子を叩くことにより、身体全体でテンポを感じることができ、演奏をするうえで、テンポがいかに重要かを知るきっかけになります。また、スーザが作曲した行進曲「星条旗よ永遠なれ」に合わせて、手拍子で演奏に参加していただきます。</p> <p>⑤指揮者体験コーナー「君は今日からマエストロ！」 児童・生徒2名、そしてサプライズで先生1名の計3名に実際に指揮者を体験していただく時間です。体験前に、プロの指揮者から、オーケストラ指揮者の役割について説明を受けます。その後、基本的な指揮の方法についても指導を受けます。指揮の指導は、実際に指揮者を体験する児童・生徒のみならず、会場にいるすべての児童・生徒にも参加していただきます。 また、プロの指揮者を含めて合計4名が同じ曲を指揮することにより、指揮者が変わる度にオーケストラが奏でる音楽の彩りやテンポの変化に気づくことになり、オーケストラ音楽を聴く楽しみ方を増やすきっかけを作ります。 ※基本的に体験する人数は児童・生徒2名+先生1名ですが、学校の状況や鑑賞者数次第では、相談することができます。</p> <p>⑦アンコール:開催校校歌 普段歌っている児童・生徒はもとより、作詞・作曲者の想いが詰まっている、世界に1つしかない校歌を、フル・オーケストラ版にアレンジしてアンコールで共演します。ピアノ伴奏だけでは感じられない重厚なハーモニーや、オーケストラの迫力ある演奏と一緒に歌いましょう。皆さんの一生の記憶に残る時間になると思います。</p>														
<p>出演者</p>	<p>指揮:太田 弦(仙台フィル指揮者)、神成 大輝(仙台フィル副指揮者) 司会・語り:竹平 晃子 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団(3管10型) 【編成】10-8-6-6-4/3-3-3-2/4-2-3-1/Timp,3Perc,Hp,Cele 詳細は、別添(出演者)をご確認ください。</p>														
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 63 名 スタッフ: 14 名 合 計: 77 名</p>	<p>運搬</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>楽器車用</th> <th>平台・PA用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積載量:</td> <td>4 t</td> <td>2t</td> </tr> <tr> <td>車 長:</td> <td>9 m</td> <td>調査中</td> </tr> <tr> <td>台 数:</td> <td>2 台</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table>		楽器車用	平台・PA用	積載量:	4 t	2t	車 長:	9 m	調査中	台 数:	2 台	1台
	楽器車用	平台・PA用													
積載量:	4 t	2t													
車 長:	9 m	調査中													
台 数:	2 台	1台													

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		— 時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時25分(予定)	8時30分～10時30分	13時30分～15時	15分	15時～17時	17時(予定)

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	0日	0日	0日	5日	
	11月	12月	1月	計	13日	
	4日	4日	0日			

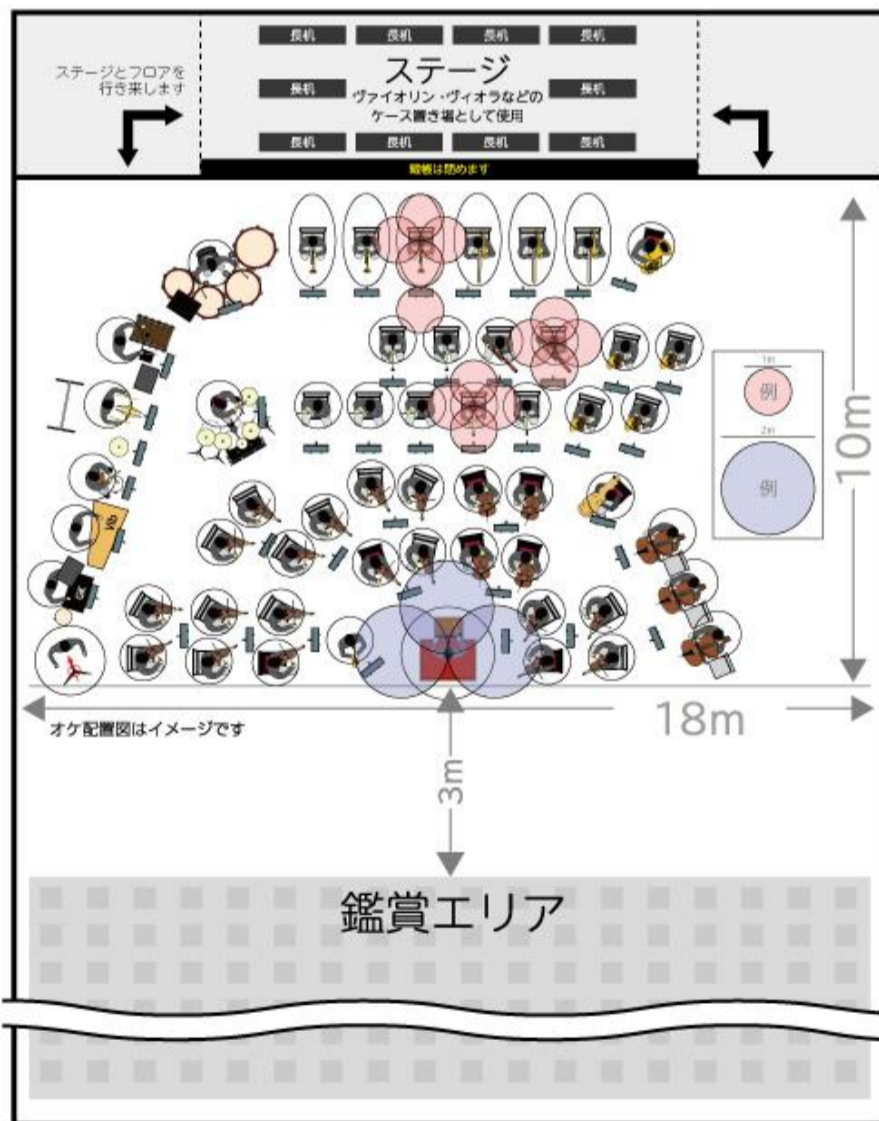
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	全校生徒対象(～800名程)
		鑑賞人数目安	全校生徒対象(～800名程)



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



1.[舞台の設置場所] フロア面
オーケストラはフロア面で演奏します。

2.[舞台に必要な広さ]
演奏スペース:【縦】10m×【横】18m
ステージ上:楽器ケース置き場として使用
(緞帳は閉めます)



3.[暗幕の要否]場合によって必要
演奏スペースに日差しが直射する場合、
遮光用に使用します。

4.[緞帳の要否]必要
舞台上は緞帳を閉めて、楽器ケース置き
場とします。

5.[トラックの横付け]必要
楽器運搬トラックは、横付けおよび敷地内
への留め置きが必須条件です。

6.[ピアノの移動の有無]必要に応じて有
オーケストラが演奏するスペースにある場
合は事前にご移動ください。

演目選択理由	ワークショップ	参加人数目安	本公演で鑑賞される児童・生徒の皆さん(全員)
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>本公演前に行う「ワークショップ」では、下記のように分かれて進んでいきます。</p>		
	<div style="border: 1px solid red; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">オーケストラについて「知る」</p> <p style="text-align: center;">①プロの音楽家との出会い</p> <p style="text-align: center;">②くるみ割り人形について知る</p> <p style="text-align: center;">オーケストラを「きく」</p> <p style="text-align: center;">③ミニ・コンサート</p> <p style="text-align: center;">④「わからない」を「わかる」に</p> </div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  <p>↑ 楽団オリジナルパンフレットを使用して、本公演で来る楽器について学びます。</p> </div> <p>オーケストラについて「知る」</p> <p>①プロの音楽家との出会い</p> <p>児童・生徒の皆さんと4名のプロの音楽家が初めて出会う時間です。まずは、オーケストラの楽器群が4つに分かれていること(弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器)を知っていただきます。ワークショップに参加しない楽器については、楽団オリジナルの楽器紹介パンフレットを使用して、それぞれの楽器について細かく説明しながら学んでいただきます。本公演では、60人以上のフル・オーケストラが学校にお邪魔することも説明し、本公演への期待感を高めます。</p> <p>②本公演メインプログラムの「くるみ割り人形」について知る</p> <p>チャイコフスキーが作曲した「くるみ割り人形」について知っていただきます。くるみ割り人形がどの時代に作曲されたのか、チャイコフスキーとはどんな人なのか、まずは曲の知識を身に着けます。曲の知識を身に付けた後は、各曲の代表的なフレーズを実際に演奏し、演奏した箇所がどのような場面だったかをグループに分かれて話し合い、発表します。音楽を聴き、場面を想像することにより、豊かな感性を育む一助になると考えます。</p> <p>オーケストラを「きく」</p> <p>③ミニ・コンサート</p> <p>4名の楽団員によるミニ・コンサートを「聴く」時間です。独奏曲や、4名全員によるアンサンブルの曲を聴いていただきます。各楽器の音色や、複数人で演奏するアンサンブルでの息遣いなど、オーケストラとは違う、少人数で行うからこそその良さを感じられます。</p> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>管弦楽部や吹奏楽部とのコラボレーションをすることも可能です。(※要相談)</p> <p>④わからないことを、プロ演奏家に聞いてみよう</p> <p>ワークショップを通じて、疑問に思ったことをプロの演奏家に「聞く」時間です。オーケストラの楽器について、くるみ割り人形について、プロの演奏家についてなど、多くの質問をお寄せください。ワークショップの当日、大人数の前では質問ができなかった方も大丈夫です。ワークショップが終わったのち、楽団から先生にWebで回答できるフォームを送らせていただきます。大勢の前で質問ができなかった、時間がなくて答えられなかったという子供たちの質問に対して、後日ワークショップメンバーが動画でお答えします。この動画は、子供たちが使用しているタブレット端末で見ることができるよう、プラットフォームとしてYouTubeを利用する予定です。</p>		

<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>身近な生活の中で、何気なくオーケストラの音色が耳に入ることがあると思いますが、生のオーケストラ音楽を聴く機会は滅多にないかもしれません。そのため、児童・生徒が目の前で奏でられる音楽や音楽家と向き合い、本公演に期待感を高められるような内容になるよう、心掛けていきます。</p> <p>②では、児童・生徒がグループを作り、曲について話し合う時間を設けます。グループでの意見交換を通じて、子供たちの音楽に対する感性を高めていけると考えております。自分の意見を周囲に伝えることも、芸術鑑賞を行う上で重要なファクターだと考えます。</p> <p>③では、独奏やアンサンブルの演奏を聴いていただきます。普段のコンサートより近い距離で鑑賞していただき、奏者同士がコミュニケーションをとっている様子や、演奏家の表情・息遣いを間近で体験していただきます。本公演では、フル・オーケストラの音色が体育館の中に広がることも説明し、本公演への期待感を高めることへと繋げます。</p>
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>[開催時間] 各学校の時間割に則り、1時間分を基準とします。 小学校＝45分間、中学校＝50分間</p> <p>[派遣人数] 4名(仙台フィル楽団員3名、ピアニスト1名)</p> <p>[借用備品] ピアノ(グランド・アップライトなど、種類は問いません)</p> <p>・特別支援学校での実施の場合は、プログラムの基本的な軸は変えずに、開催校の先生方にお話を伺い、児童・生徒の皆さんに応じた内容へと変更することが可能です。</p> <p>・基本的に、右図のような配置でワークショップを行います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ピアノがステージ上にある場合</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ピアノがフロア面にある場合</p> </div> </div>

本事業への申請理由

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>仙台フィルは学校巡回公演を通じて、日本の芸術分野の未来のために、将来を担う子供たちへ本物の音楽を届けて参ります。</p> <p>本事業を通じて、鑑賞する子供たちの創造力や感性を豊かにする大きなきっかけに繋がるのではないかと考えております。その理由として、各学校から寄せられるアンケートや子供たちの感想文に、「ピアノを習っていますが、もっと練習を頑張り、皆さんのような演奏家になります」とや、「色々なコンサートを聴いてみたい」となど、今後の人生に生かしていきたい、という前向きな声を聞くことが多いからです。芸術の分野に進むことはなくとも、芸術分野への興味・関心を高めることにより、子供たちの豊かな心や文化的な伝統を尊重する心の育成に大きく繋がると感じております。また本事業では、芸術を鑑賞する機会があまりない地域にも、本物の芸術を届けることが可能となり、未来を担う子供たちに、文化芸術を平等に届けることができる、とても魅力的な事業だと感じております。</p> <p>本事業の最大の特徴は、「ワークショップ」「本公演」と2回に分けてプロの演奏家・オーケストラという芸術団体に触れ、音楽を通じて学びを深めコミュニケーションをとれることにあると考えています。</p> <p>はじめの「ワークショップ」では、プロの演奏家と初めて出会う貴重な時間となり、本公演で大人数が訪れる前に、予めオーケストラについて学んでいただきます。本公演をより楽しんでいただけるよう、鑑賞する曲についての基礎知識を身につけたり、ミニ・コンサートを鑑賞することで、フル・オーケストラが来ることの期待感を高め、音楽についてより興味を持っていたけような時間になるよう、目指して参ります。</p> <p>その後、児童・生徒の目の前に約60人以上のフル・オーケストラが訪れ、生の演奏を五感を使って聴いていただく時間が「本公演」です。例年仙台フィルのプログラムは、楽団員と共に選曲を行っています。子供たちに音楽を鑑賞する楽しさ・素晴らしさを知っていただけるのか？今後の生活にどのようにしたら繋がるのか？ワークショップと本公演という短い時間の中で、どのような体験をしていただけるのか？などを踏まえて、効果的なプログラムを検討しております。今年度のプログラムの最大の特徴は「学びを交えた鑑賞体験」です。音楽を聴いて、この曲が良かった、かっこいい、優しい音色、という感想を持っただけではなく、作品がどのようなストーリーになっているのかなどをバレエ音楽「くるみ割り人形」を題材とし、知って・見て・聴いて・学んでいただけることを意識してプログラミングをしました。また、聴くだけではなく実際に共演したり、指揮者を体験したりと、音楽に対する感性を豊かにし芸術に触れることの楽しさを知っていただけるよう工夫して参ります。</p> <p>仙台フィルは、子どもたちの創造力と感性を育み、未来に向けて人間が人間らしく生きられるような体験を提供し、また、今後の芸術活動に積極的に参加していただけるようなきっかけを作れるように、本事業に取り組んで参ります。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>公演を効率的に進めていくため、学校の負担を減らす工夫を行っています。例えば、打ち合わせで使用するマニュアルはできるだけ簡略化し、誰が見てもわかりやすく記入しやすい書式を採用しています。このマニュアルは、いままで公演を重ねてきた経験をもとに、学校側がどのような情報が必要かを精査し作成しております。また、学校側に迷惑がかからないよう、本公演前には最終確認を電話で行い、公演が無事に成立するよう最後まで念入りに学校との連携を密にしております。</p> <p>今年度は子どもたちがオーケストラ全体を見渡せるように、平台でひな壇を作ります。従来であれば、オーケストラの後ろ側に配置されている金管楽器や木管楽器など同じ高さにいることから、後方に座っている子供たちがオーケストラ全体が見えにくい状況でしたが、より良い鑑賞の環境を整えます。</p> <p>また、近年はICT教育が普及し、1人1台タブレット端末を使用する時代です。ワークショップでは、質問の回答や、質問の回答動画を視聴するためにタブレット端末を使用する機会を取り入れる試みを行います。</p> <p>90分という短い時間の中で子供たちに楽器への興味を持っていただけるような工夫や、児童・生徒に本物の音楽を届けられるよう、これまで蓄積してきたノウハウを元に、その都度改善を図っております。</p>
--	---

リンク先	No.2	【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】
<p>演目概要</p>	<p>この度の巡回公演プログラムは、子どもたちと音楽や芸術との距離を近づけ、芸術に触れることの素晴らしさ・楽しさを知るきっかけになると考えています。また、演奏会を聴くことだけではなく、指揮者体験コーナーや合唱共演も計画しています。</p> <p>【前半】のテーマは、「オーケストラを知る」。 事前に行うワークショップの内容を、さらに深く掘っていきます。演奏会のオープニングを飾るのは、華やかなファンファーレです。金管楽器の重厚なサウンドを身体全体で体験していただきます。その後は、プロの演奏家が児童・生徒の目の前で、実際に楽器の演奏をしたり、楽器の特徴や役割について学んでいただく楽器紹介コーナーを設けます。指揮者体験コーナーでは指揮者の役割を学びながら、実際に指揮を体験していただきます。すべてが仙台フィルのオリジナリティあふれる楽器紹介・指揮者体験であり、児童・生徒に楽しく音楽を知っていただけるような工夫も取り入れながら進めていきます。前半のプログラムの最後に演奏するのは、楽団員ソリストによる協奏曲です。1つの楽器を集中して聴く楽しさや、ソロ楽器とオーケストラのアイコンタクトや息遣いについて、興味・関心を深めることができると感じています。</p> <p>【後半】のテーマは、「音楽を物語と共に楽しみながら聴く」。 チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」を仙台フィルオリジナルエディションである《語り付き》(語り台本：新井 鷗子)で聴いていただきます。 くるみ割り人形の各場面の様子を語りによって伝えることで、子どもたちの想像力をかきたて、場面を思い浮かべながら作品を聴くことで、チャイコフスキーの豊かな表現力をより深く感じていただきます。 物語の朗読は、説得力を持つ信頼の厚いプロのナレーターを抜擢しました。音楽物語というジャンルを通じて、児童・生徒の鑑賞の能力を高めることが狙いです。</p> <p>【前半】と【後半】を通じて、音楽の興味・関心を高め、芸術に触れることの素晴らしさ・楽しさを知る機会に繋がるようなプログラムを目指して参ります。</p>	

リンク先

No.2

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】

昨日まで体育の授業やクラブ活動で使っていた体育館が、一晩経つと…素敵なコンサートホールに変わっているではありませんか。オーボエの音をきっかけにオーケストラはチューニングを行います。一瞬で、会場の空気が変わる様子を体験することができます。

①ロッシーニ: 歌劇「ウィリアム・テル」序曲より スイス軍の行進

静寂の中を切り裂くトランペットやホルンの音色。弦楽器の軽やかな調べは、運動会で聴いたことのある方も多いことでしょう。中間部の木管による楽しいリズムや、終盤に向けてすべての楽器が一体となって進んでいく音楽となっています。歌劇(オペラ)の冒頭で演奏される「序曲」は、コンサートのオープニングにふさわしい期待感のある作品です。

今回お聴きいただく「スイス軍の行進」は、序曲が4つの場面に分かれている中で、一番最後に演奏される曲です。国に平和をもたらしたスイス軍の行進の様子や、市民の喜ばしい雰囲気を表しています。



②楽器紹介コーナー「オーケストラの仲間たち」



↑自分の身長より長い楽器に驚く児童。

ワークショップでは限られた楽器しか紹介することができませんが、本公演ではオーケストラの楽器たちすべてが、目の前に広がります。

オーケストラには、弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器の4つのグループがあります。それぞれの奏者が皆さんの前に出てきて、普段の授業では聞くことができない楽器の仕組みや特徴についてのお話や、それぞれの楽器の音色をじっくり聴いていただきます。

楽器紹介の最後には、仙台フィル打楽器奏者がドラムマーチを演奏します。スネアドラムのリズムに合わせて、手拍子で参加しましょう。

手拍子が続いている中、ドラムマーチに続けて、アメリカの作曲家・スーザが作曲した行進曲「星条旗よ永遠なれ」を演奏します。そのまま手拍子を続けているため、皆さんの手拍子がテンポを刻み、演奏が進んでいきます。演奏をするうえで、「テンポ」がいかに重要かを知るきっかけになります。

③楽団員によるConcerto(協奏曲)を聴こう

クラシックのコンサートでよく演奏される「協奏曲」というジャンルの演奏を聴いていただきます。協奏曲とは、文字通り「協力」して「演奏」する曲です。ソロの楽器とオーケストラという編成の曲を演奏します。学校公演などではオーケストラメンバーが前に出て演奏する機会が少ないですが、協奏曲のスタイルでは、その楽器の魅力を感じていただける絶好の機会です。

協奏曲はConcerto(コンチェルト)(原語はイタリア語)と呼ばれ、前で演奏する人のことを「ソリスト(Soloist)」と呼びます。今回の公演では、
・公演地にゆかりのある団員 ・若きフレッシュな団員 などを中心に、メンバーや曲目を選定します。オーケストラの前で堂々とした姿で演奏する姿は、子どもたちに大きな印象を与えることでしょう。



↑「星条旗よ永遠なれ」では、演奏中に楽団員が皆さんの近くまで行きます。体育館の隅から隅まで使った音楽を楽しむことができます。



↑上記の写真は、コンサートホールでの協奏曲です。ソリストは、指揮者の横で演奏をします。

演目選択理由

④【指揮者体験】「君は今日からマエストロ！」



各楽器を紹介したあとは、オーケストラのまとめ役である指揮者にスポットを当てます。プロの指揮者が自らの言葉で指揮者の役割を説明した後に、実際に児童・生徒2名に体験をしていただきます。最後には、先生にサプライズで登場していただきます。約60人のプロの演奏家をまとめる指揮者の役割を体験できる、貴重な経験です。

また、プロの指揮者・児童・生徒2名・先生1名の合計4名の指揮者が同じ楽曲を指揮することにより、それぞれの指揮者によって演奏の表情やテンポが変わる部分に注目しながら聴くことができ、オーケストラにとって重要な役割を指揮者が担っていることを理解していただきます。

⑤チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」

本公演の最後を飾るプログラムです。ロシアの作曲家、チャイコフスキーが作曲したバレエ音楽「くるみ割り人形」に新井鷗子氏が物語を描いた、音楽物語を聴いていただきます。

あるクリスマスの夜、この物語の主人公・クララはクリスマスプレゼントで「くるみ割り人形」をもらいます。クララはくるみ割り人形をととても気に入るのですが、それを見た弟フリッツとくるみ割り人形の取り合いとなり、その最中に人形が壊れてしまいます。失意のまま眠りについたクララですが、壊れたくるみ割り人形が気になって仕方ありません。

夜中に目が覚めて壊れたくるみ割り人形のもとへ行こうとしたその時、時計の鐘が鳴り響いたのをきっかけに、クララの身体は小さくなってしまいます。

そこへ、ねずみの大群が押し寄せ、クララは襲われてしまいますが、クリスマスプレゼントで貰ったくるみ割り人形が、おもちゃの兵隊を連れて助けに来ます。ねずみの王様とくるみ割り人形は戦いを繰り広げますが、最後はクララの手助けによりくるみ割り人形が勝利します。すると、くるみ割り人形は王子の姿に変わり、クララにお礼を伝えて、お菓子の国にクララを招待する、という物語です。

そのお菓子の国では、色々な妖精たちが舞い踊り、クララを歓迎します。

バレエ「くるみ割り人形」は、2幕で構成され、すべて演奏すると1時間30分を超える大作ですが、今回はその中から、**花のワルツ**や**金平糖の精の踊り**、**葦笛の踊り**などの有名な名曲をピックアップし、ストーリーがわかるような順番に並び替え、語りを添えて演奏します。

本公演前のワークショップでは、曲のフレーズを聴き、グループごとに曲の題名を想像する時間を設けます。また、本公演ではプロの語り手が、曲に合わせてストーリーをお話しします。ストーリーに基づくチャイコフスキーの匠なオーケストレーションにより、各楽器の特性やオーケストラ音楽の繊細さ、また豪華さをお楽しみいただけます。

語りと音楽の組み合わせられた「音楽物語」の豊かな時間の中で、子供たちの感性が生まれ、芸術鑑賞能力の向上や創造力の醸成に繋がればと考えております。

また、小学校・中学校だけではなく、障がいをお持ちの方でも気軽に親しみ楽しむことができる作品だと思います。

【アンコール】⑨開催校校歌(合唱共演)



世界にたった一つしかない皆さんの学校の校歌を、今回は特別にフル・オーケストラ編成にアレンジします。普段から歌っている校歌だからこそ、皆さんの思い出に強く残ることは間違いありません。演奏会の最後をオーケストラと皆さんで共に盛り上げましょう。

←校歌を歌う際は、指揮者が皆さんを向いて指揮を振ります。指揮者・オーケストラ・そして歌う皆さんが一つになれる素敵な時間です。

リンク先 No.2

【公演団体名 仙台フィルハーモニー管弦楽団】



出演者

【指揮者】 太田弦 (おおた・げん)

1994年北海道札幌市に生まれる。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。東京芸術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を卒業。2015年、第17回東京国際音楽コンクール(指揮)で2位ならびに聴衆賞を受賞。指揮を尾高忠明、高関健の両氏、作曲を二橋潤一氏に師事。これまでに読売日本交響楽団、東京交響楽団、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団などを指揮、今後さらなる活躍が期待される若手指揮者筆頭。2019年4月より大阪交響楽団正指揮者に就任(2022年3月末まで)。2023年4月から仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者に就任、2024年4月より九州交響楽団首席指揮者に就任予定。第30回(2022年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

【指揮者】 神成大輝 (かなり・だいき)

茨城県守谷市出身。5歳からピアノを、12歳からファゴットをそれぞれ始める。また、14歳から合唱およびオーケストラの指揮を始める。その後、トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラに所属し、松尾葉子氏の指導のもとオーケストラと指揮について学ぶ。15歳から松浦修氏に師事。鈴木織衛氏のレッスンを受講する。2015年、東京芸術大学音楽学部に入學し、高関健氏、山下一史氏に師事。尾高忠明氏、ジョルト・ナジ氏、ラースロー・ティハニ氏のマスタークラスを受講する。学部在学中に「宮田亮平奨学金」、安宅賞を受賞。また、同大学指揮科を首席で卒業すると同時に、同声会賞、アカンサス音楽賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞するほか、2019年4月の新卒業生紹介演奏会に選出され、芸大フィルハーモニア管弦楽団と共演。シベリウスの交響曲第7番を演奏する。2021年4月、同大学大学院音楽研究科指揮専攻の修士課程を修了し、大学院アカンサス賞を受賞。2023年9月から、仙台フィルハーモニー管弦楽団に副指揮者として就任。

【司会・朗読】 竹平晃子 (たけひら・あきこ)

TNCテレビ西日本報道部、NHK横浜放送局を経て、現在はフリーアナウンサーとして幅広く活動中。これまでに、FMヨコハマのニュースアナウンサーのほか、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、宮崎国際音楽祭、横浜音祭り、フェスタサマーミュージックKAWASAKIのWEB配信など、全国各地でコンサートナビゲーターを務める。また、ライフワークの朗読では、オーケストラとの共演のほか、「ピアノと読み声一紋音」としても活動。その他…横浜市鶴見区サルビアホールアーティストバンク登録アーティスト。横浜市芸術文化教育プラットフォーム「アーティストが学校へ」登録アーティスト。

【管弦楽】仙台フィルハーモニー管弦楽団

仙台フィルは、1973年に「宮城フィルハーモニー管弦楽団」として誕生。1983年4月から芥川也寸志が音楽総監督として現在の礎を築き、外山雄三音楽監督、パスカル・ヴェロ・飯守泰次郎常任指揮者らのもとアンサンブルに磨きをかけてきた。2023年度に高関健が常任指揮者に就任、創立50周年を迎えさらに充実した活動を展開している。2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災による影響で、数ヶ月にわたり演奏活動を中止せざるを得ない状況となったが、「音楽の力による復興センター・東北」と協力し音楽を被災者のもとに届ける活動を行った。現在、日立システムズホール仙台コンサートホールでの定期演奏会のほか、「仙台国際音楽コンクール」「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」でも広く市民に親しまれ、「杜の都」の音楽文化における中心的役割を担っている。